

思考を育てる「書くこと」の学習

●玉川大学教職大学院 井出一雄

昔から「児童は書くことが苦手」という声を耳にする。その背景には、「作文指導はどのように教えたらよいかよくわからない」という教師の指導上の課題があると考ええる。このような児童や教師の悩みを解決したのが『小学生の国語』である。

ここでは、主として、書くことの思考力を耕す教材の配列や内容構成等の工夫について説明する。

書く力の定着を図る教材配列の工夫

「書くこと」の指導の教材は、「手紙」「体験・生活文」「記録・報告文」「創作」「書くこと」で推薦文」「記録・報告文」「創作」「書くこと」で振り返る」の七つの系列になっている。特に、当該学年で重点となる書く力の定着を図るために、タイミングよく、春に設定の「体験文・生活文」、秋の終わりに設定の「記録文・報告文」の二系列によって、「書くこと」における話題設定、取材、構成、記述等の指導事項の習得を図る配列になっている。そして、学年

末に設定した「書くこと」で振り返る」の教材で、当該学年での書く力の習得の確認と次の学年へのつながりを意図した教材配列の工夫がなされている。

自ら主体的に思考し書くための視点の明示

文章を書くということは、言うまでもなく個別の営みである。そこで、どんな内容をどのように書くかなど、一人で考えて書くための道標が必要となる。この書くための道標が『小学生の国語』には示されている。次に例を挙げる。第一学年下の「みの まわりのいきもの」では、「どんなようすやうごきが見えますか。」とたずね、「かたち、おおきさ、いろ、うごき」を、書くときの視点として明示している。また、第三学年の「クラスのことを調べよう」では、「いつもんカード」を作りましょう」「文章にまとめましょう」という書くときの手順や視点をしっかりと明示している。

このように、教科書を基に児童自らが主体

き、書くことの話題が設定される。そして、自らの取材力、構成力、記述力等を駆使して実作していくのである。この書くという一連の過程において、「今、どの部分に取りかかっているのか?」「そのときに必要なことは何か?」などを把握しておくことが重要である。このことを、第六学年の「説得力のある意見」の教材を例に説明する。(第五学年の「見学レポート」も同様である。)

まず、書くときの過程に即したためあてが①自分の意見を明確にする③効果的な組み立てを考える⑤五つの過程ごとにしつかりと明示してある。

次に、その①から⑤までの過程で、どのようなことに留意して取り組むかが分かりやす

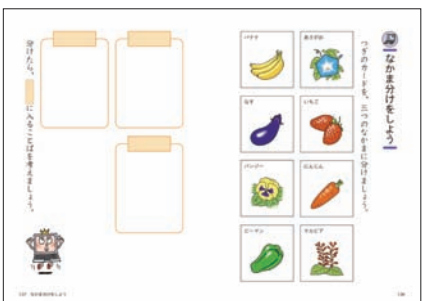
く例示してある。特に、「②意見に説得力を持たせる」「③効果的な組み立てを考える」「④読み手に伝わるように書く」では、それぞれの取材、構成、記述の仕方について、書くときの参考となる事柄が具体的に明示されている。このことは、書くときの過程を意識し、必要な文字表現力の定着を図ることを意図している。

最後は、③のページの「組み立ての例」や④や⑤のページの吹き出しなどで、多様な表現の仕方や確かめ方があることを促していることである。

このように、書く過程に即した表現力の定着を図るための内容構成になっている。



第6学年「説得力のある意見」



第2学年「なかま分けをしよう」



第3学年「ふせん紙を使って整理しよう」

第1学年
「みのまわりのいきもの」



第3学年「クラスのことを調べよう」



いで かずお 玉川大学教職大学院准教授。東京都内の公立小学校教諭・指導主事・統括指導主事を歴任し、3校の小学校長を勤め、現職に至る。

的に思考し書くことができるように、書くための視点、つまり、一人で考えて書くための道標が「書くこと」の教材随所に明示してある。

書く過程ごとに必要な表現力に着目した内容構成

書くという行為には、相手・目的意識が働

思考力の日常的な耕しを図る学習の例示

書くこととする事柄を取材したり整理したりするためには、言葉を紹介した思考力が働く。いくつかの事柄を比較して、分類したり関係付けたりするといった思考の耕しである。これらは、日常的に繰り返して指導することによって身に付いていくものである。

各学年、情報の収集や選択、発信などの学習活動を扱っている教材が思考の耕しとして重要な役割を果たしている。第二学年の「なかま分けをしよう」、第三学年の「まとめた言葉」は、いくつかの事柄を比べながら分類していくための思考力を育成する教材である。

また、第四学年の「ふせん紙を使って整理しよう」は、事柄ごとの関係を考え、ある目的のために整理していく教材である。第五学年でも「情報を整理しよう」という教材があり、情報を上位概念と下位概念に分けていく「ツリー構造」の学習を取り扱っている。このように、いくつかの事柄を比較すること、分類すること、関係付けることなどは、日常的に取り組んでいくように教材化されている。そして、取材したり構成したりするなど、書くときの学習に生きて働くようにしたいと考えている。